plus minus petaloides sterilibus. Carpella floris primarii sunt sepala floris secundalii, foliacea, 2 rarius 1, 13 mm longa 4—6 mm lata, serratula apice plus minus rubescentes anthennaeformes, extra alabastrum projecta basi stipitata, stipibus 5 mm longis. Flores secundalii, petalis ad 13 (1—13), leviter roseis vel albis, 2—12 mm longis, staminibus 1 vel 2 rarius ad 5, filamentibus brevibus saepe 0, pistillis filiformibus albis, vel foliaceis et viridis.

Nom. Jap. Kusima-zakura (nov.) Hab. Kyûsyû. Prov. Hizen, Ômura Kusima, in horto templi culta (S. Toyama 18 Apr. 1947—Typus in Herb. Univ. Tokyo).

○キイレツチトリモチの長崎における再發見（外山三郎）

キイレツチトリモチ *Balanophora tobiracola* Makino は明治 43 年，薩摩產の材料によつて記載されたものであることは周知の事實であるが，田代善太郎，山崎又雄兩氏はその前，明治 40 年 12 月 1 日長崎市飽浦の雜木林內でこれを發見された。その標本の一部は今私の手もとにもある。田代氏がかつて私に語られたところによればその產地は，長崎港の西側にある飽浦の海岸から峠をこして福田に通ずる細い舊道の北側，峠の附近で，しかも峠の東側即ち長崎港に面しシヤリンバイのしげつたところであつたという。しかるにこの舊道はその後改さくされてバスをも通すほどのものとなつたが，この道路工事の際發生地がけずりとられたため，この兩氏以外に同地でこの植物を採集したものはなく，全く絕滅したものと思はれていた。ところが高橋貞夫君は昭和 16 年 11 月 3 日，長崎港の北東にある本河內の雜木林內で主としてトベラ，稀にネズミモチ，極めて稀にシヤリンバイに寄生している本種を發見され，こえて昭和 18 年 12 月 29 日，今度は田代，山崎兩氏によつて發見されていた飽浦で再發見された，その場所は特にこゝでは詳言しないが，ともかく兩氏初發見の所から極めて近い地點である。先年私も高橋君の先導でこの兩地に現物をみることができた。ついで昭和 20 年 10 月 24 日，今度は高橋君の教子である長崎中學生の中谷保行，杉本隆介，藤野充の三君が長崎港の南東にある愛宕山でトベラに寄生している本種を發見，更に昭和 21 年 11 月 12 日，高橋君は長崎港の東にある彥山でネズミモチに寄生している本種を發見された。即ち田代，山崎兩氏發見後凡そ 40 年，本種の分布北限である長崎港をかこむあちこちの山々でつぎつぎに發見されたことは愉快なことである。しかし最近燃料不足のためこれらの雜木林はいつ伐採されるかわからぬ運命にあるのは心細いしだいで，今のうちに何とかしておきたいものと思う。

○マルバママコナが壹岐にある（外山三郎）

マルバママコナ *Melampyrum ovalifolium* Nakai は中井博士が朝鮮元山に產するものを原品として記載されたものであるが，まだ內地に產する記錄をみない。ところがこれが長崎縣の壹岐にある，壹岐の島では勝本，箱崎，那賀など島の北半の樹陰や路傍